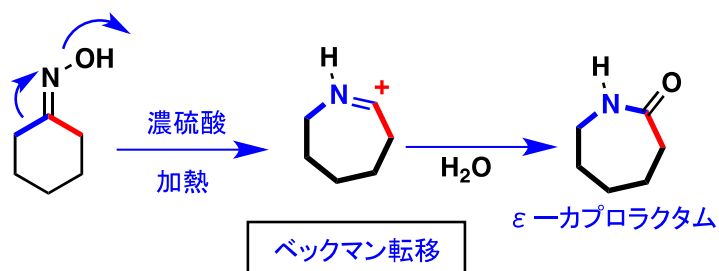


6. 用語解説

(注1) 概念図1Aの1aおよび1bはプロモニウムイオンとよばれる反応途中に一過的に生成する分子。隣接基関与でそれなりの寿命を持っている。約30年前に初めてX線結晶構造解析がなされ、構造が確認された。

(注2) 高校の化学の教科書や参考書に掲載されているベックマン転位の例 (次頁)



OH基と反対側にある炭素結合が窒素上に結合を組み替える(転位する)。最も有名な応用例は、ベックマン転位によってε-カプロラクタムを合成する反応である。生成したε-カプロラクタムは加水分解し、さらにポリマー化して、化学繊維であるナイロン6,6の原料となる。

